

2018年度

事業報告書

社会福祉法人 勇翔福社会

コスモストーリー保育園

7

2018 年度事業報告書

社会福祉法人勇翔福社会
コスモストーリー保育園

2018 年度は、待機児童解消のため分園を設置し新たに 0, 1, 2 歳児の計 30 名の子どもを受け入れ本園と連携しながら保育の量の拡充と質の向上を行ってきた。そのため、保育士等を増員し、計 43 名の職員体制で保育を展開してきた。

そのような職員の増員と並行して各職員の保育の課題や目標の共有化を図るため、副園長を設けた管理体制を体系化し役割分担を明確にしながら専門性と保育の質の向上に取り組んだ。そのために取り組んできた内容は、大きく三つある。

第一に、新保育所保育指針に基づき保育の全体的な計画の作成や保育の評価のあり方を改善した。実際には、新しく開発されている保育の質のスケールを参考にしながら計画と評価の改善に取り組んだ。その中で、特に保育のプロセスの質を評価するスケール（ナラティブ・アセスメント）としてラーニングストーリーを見直して質を高めていった。その取り組みの成果と課題は 2018 年度の琉球大学の紀要論文に掲載されている。

第二に、小学校との接続の質を高めるために、前川財団の研究助成を受けて、琉球大学大学院の岡花祈一郎准教授との共同研究を行った。その取り組みの成果として、2019 年 2 月 23 日に行われた琉球大学教育学部主催の保幼小接続のシンポジウム（沖縄県教育委員会後援）の中で、研究発表を行い幼稚園・認定こども園・小学校と様々な意見交換を行った。

第三に、保育の環境と遊びの質を高めるための取り組みを進めてきた。保育環境は、子どもの生活や遊びの研究に詳しい設計士の井上寿氏との協働でワークショップを行い園庭や室内環境を整備した。遊びの質においては、日本保育学会の研修リーダーでもある聖心女子大学の河邊貴子教授をお招きして、本園の保育を見て頂いた後に園内研修を行うことで、援助や環境設定を含めた保育者の専門性とは何なのかを具体的に学び合うことができた。

以上の取り組みは、引き続き来年度も行っていきながら、その成果を 2019 年度予定されている公開保育と研究発表に繋げていく計画をしている。

また、送迎用の駐車場を拡張した為、保護者や地域の方々から大変喜ばれ、送迎時の安全性が高くなった。

社会福祉事業

第2種社会福祉事業 コスモストーリー保育園の運営

一般保育事業

平日 7:00 ~ 18:00

保育標準時間 (7:00~18:00) 保育短時間 (8:00~16:00)

特別保育事業

延長保育事業 保育標準時間 18:00 ~ 19:00

保育短時間 7:00 ~ 8:00

16:00 ~ 19:00

公益事業

なし

収益事業

なし

1、施設事業運営

①園児受け入れ数・延長保育利用人数・職員数

(本園)

	定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳	9	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	144
1歳	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	216
2歳	18	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	288
3歳	24	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	336
4歳	24	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	348
5歳	17	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	348
合計	110	140	140	140	140	140	140	140	140	140	140	140	140	1680
延長	標準	63	79	95	91	81	68	86	101	118	91	99	135	1107
保育	短	34	26	42	59	47	31	18	53	58	40	37	40	485

園長 1人 副園長 1人 主任保育士 1人 保育士 20人 (看護師含む)

厨房 4人 用務員 1人 保育補助 1人

(分園)

	定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳	6	10	11	11	11	12	12	12	12	12	12	12	12	139
1歳	12	12	12	12	12	11	12	12	12	12	12	12	12	143
2歳	12	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72
合計	30	28	29	29	29	29	30	30	30	30	30	30	30	354

副園長 1人 保育士 9人 短時間保育士 2人 厨房 2人

園児が、同学年による組編成の中での同年齢との関わりと、朝夕の遊び時等での異年齢との交流を持てるよう保障した。

※保育士の資格を取得しようとする志のある保育補助を配置する。卒業後1年間は当施設へ勤務するという確約のある場合は、資格取得のための支援を行った（授業や実習等のための勤務シフトの調整や有給の付与等）

②園児の健康管理

知念小児科医院の知念正雄先生による内科健診とつばさ歯科クリニックの大嶺裕先生による歯科検診を年2回行った。健診後は、保護者へ結果を報告すると共に予防接種や虫歯治療の推進を行なった。（予防接種免許証の発行）

また、年2回ぎょう虫検査、尿検査も行った。

0、1歳児は感染症にかかりやすい為、健康チェックを特にこまめに行い、受け入れ時は保護者に検温の協力をお願いし、又、園でも午睡前には検温を行い異常の有無の早期発見に努めるようにした。他の年齢においても、全職員、受け入れ時や保育中視診を怠らないようにした。

又、虐待の疑いがあるときは、園長へすぐに報告し関係機関と連携をとる。

沖縄県は、むし歯有病者率が高いので、園でも予防対策に取り組んだ。（食後の歯磨き、おやつ後のうがい、虫歯完治後のメダル授与、保護者へのお便り等）

③栄養面の管理

在宅の栄養士が作成した献立表を基に調理した食事を提供した。

乳児は離乳食から幼児食への移行も保護者との連携の下、全員がスムーズに行えた。0歳児室と調理室が隣り合わせのため連携が取りやすかった。

2～5歳児は、昼食を隔月に1回バイキングスタイルで行い好評であった。

④保育内容

保育所指針と地域の特性を踏まえて保育課程・指導計画を作成し計画性を持ちながらも、子どもの興味関心に沿いながら環境構成を行い計画的かつ柔軟性を持った保育を展開し乳幼児期にふさわしい体験を積みかさねられるようにした。

特に幼児クラスは、協同的な活動を大事にして持続的に協力して遊びを展開できるよう、わくわくルームを活用し大がかりな協働製作も持続して行えるようにした。

また、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を手掛かりにしなが

ら、小学校との接続を見通したカリキュラムを作成し幼児教育を充実させ小学校へ円滑に繋がるようにした。一人ひとりのラーニングストーリーを小学校へ手渡しして子どもの学びの履歴を共有していった。

⑤安全管理

月 1 回避難訓練を実施し万々に備えるようにした。

年 2 回消防設備の点検（二和防災に委託）

園舎内外の安全管理の点検を実施し未然防止に努めた。

また、ヒヤリ・ハット報告を行いその対策などを意見交換し安全管理能力を高める。安全点検表は、全保育士で、交代で行い意識を高めた。

⑥環境整備

室内では作るという素材（折り紙、画用紙、絵の具、廃材等）を多様に充実させて、子どもの創意工夫を発揮できるような環境を整備した。

園庭では樹木や草花など多様な植栽を植えて、子どもの好奇心を広げていった。

設計士さんと協働で室内の間仕切りや園庭の固定遊具を作り、子どもの生活や遊びが豊かに展開できるようにした。

⑦衛生管理

食前食後の手洗い、戸外遊び後の手洗い、食後の歯磨きの励行。

汚物処理は使い捨てビニール手袋を使用し衛生面に気を配った。

下痢便、嘔吐物があるときは、ハイターや衛生水、マスク、手袋、エプロンを使用し感染予防に努めた。食事時のテーブルは衛生水（酸化電位水）で行った。又、グリストラップの清掃は、悪臭対策のため前年度に引き続き毎月行った。

⑧地域との交流

地域の方々との交流を積極的に行った。上江洲まつりへの参加（年長）や運動会などの行事は自治会長を招いて子どもの姿を共有した。

- ・実習生受入（沖縄中央学園、沖縄福祉専門学校）
- ・訪問見学（広島大学教育学研究科(2名)、ハワイ大学(10名)
- ・環境授業の一環として受入（琉球大学教育学部 46名）

⑨職員の健康管理及び福利厚生

全職員年 1 回の健康診断及び人間ドッグ、調理師は毎月検便を実施。

またインフルエンザの予防接種を行った。

職員の士気を高めるため、ユニホームをそろえた。

沖縄中部勤労者福祉サービスセンター「ゆいワーク」への加盟（定期健診補助・お祝い金・チケット割安購入等）

年休の取得率アップ、残業時間を減らすようにした。

⑩研修、講習

保育の質を高めるために県外から専門的な講師を招いて園内研修を行った。主な講師として、河邊貴子氏（遊びの質）、井上寿（環境構成の見直し）、小西貴士氏（子どもへのまなざしの質）をお招きして学び合った。

また、うるま市保育課主催の研修、社会福祉協議会、私立保育連盟主催の研修、県外研修を受講し、それぞれの任務の専門性を高め資質の向上を図るようにした。時間外の研修を受講できない保育士（乳幼児を抱えた保育士）も学べるよう受講者は職務会議の中や園内研修にて報告会を行ない皆で共有できるようにした。

毎週、各クラスで学びの物語を作成しカンファレンスを行った。

毎月の研修テーマをもとに学び合えるようにした。

⑪職員会議

会議は、基本的に子どもたちの午睡時間を利用して毎週月曜日に保育会議、給食会議、研修報告等を行い、木曜日は、園内研修を行った。職員は交互に参加し、子どもたちへの安全にも気を配った。

⑫保護者との連携

行事（ビデオ懇談会、夕涼み会、運動会、表現遊び発表会）や園だより、クラスだより、給食だより、連絡帳、送迎時を利用して保護者とのコミュニケーションを図ると共に保護者同士の交流が持てるようにした。

ホームページや掲示板にて、ドキュメンテーションを活用したりと子ども達の活動を細目に発信した。

2、施設事業管理

①事務関係

会計業務は EY 税理士法人、労務管理に関することは、社会保険労務士法人なかに委託した。

②保守関係

会計ソフト及びコンピューター関連の保守は沖縄コンピューターに、防火設備の保守はニ和防災に、ダムウォーターの保守はクマリフトへ、セキュリティ関係は琉球警備保障に委託した。

③修繕及び整備関係

- ・分園屋根工事
- ・本園第二駐車場整備

④器具及び備品購入関係

- ・ベビーカー
- ・折りたたみワゴン
- ・室内すべり台
- ・デュシマピラミッド (0歳児玩具)